

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)義澤 彰・義澤 恵様共同住宅	階数	地上7F
建設地	相模原市南区東林間1-16-3の一部	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	120 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2015年7月23日
敷地面積	2,784 m <sup>2</sup>	作成者	大東建託株式会社
建築面積	1,098 m <sup>2</sup>	確認日	2015年7月23日
延床面積	4,728 m <sup>2</sup>	確認者	大東建託株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 0.9</b> ★★☆☆☆☆</p> <p>S: A: B+: B: C:</p>	<p>☆☆☆☆☆☆</p> <p>30% 60% 80% 100% 100%超:</p> <p>標準計算</p> <p>参照値: 100%</p> <p>建築物の取組み: 89%</p> <p>上記+ 以外の: 89%</p> <p>上記+: 89%</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 2.7</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 2.8</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 2.7</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.7</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.1</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.5</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 2.4</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>共用部の省エネを考慮し、外構など周辺環境に配慮した計画とした。</p>	<p>その他</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>外皮性能については日本住宅性能表示基準「省エネルギー対策等級」における等級3に相当する性能とし、建物の熱負荷抑制に配慮した。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>天井高さや室面積のゆとり確保に配慮した。可能な限り配管の系統を区分し、災害時の使用不可能部分の低減を図っている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>外構緑化指数を20%以上とし、歩道状空を設けることで、地域の活動上のアメニティ向上に配慮した。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>断熱等性能等級 等級3に相当</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>フロン・ハロンを使用しない。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>十分な台数の駐輪場を設けた。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される